

<目次> [安全管理キャンペーン](#) / [管理運営委員募集](#) / [青い封筒募金ラッフル](#) / [有林参事官特別講演](#) / [役割希望調査](#)
 / [パネルディスカッション報告](#) / [漢字学習講演会報告](#) / [創作作品集](#) / [同窓生特別企画](#) / [学年代表募集](#) / [委員長より](#)

昨年 6 月に発生した不審者侵入・盗難事件以降、学校の安全体制強化に向けた取り組みを続けています。外部の有識者からの提言等を受けて、この度、全校を挙げて安全啓発のための活動「みんなで守ろう、みんなの友だち!」を開始することとなりました。



- 保護者の皆様におかれましては、上記の5点にご留意いただき、学校の安全確保へのご協力をお願いします。ご不明な点等がございましたら、安全管理対策小委員会（anzentaisaku@wils.org）までご連絡ください。

募集中!

各部署の業務内容については、[本校ウェブサイト](#)をご参照ください。さらなる「魅力ある学校」作りのために、ぜひお力をお貸しください。「興味がある」という方はもちろん「もう少し詳しく話を聞きたい」という方も uneiiinkai@wjs.org までお気軽にご連絡ください。

2023 年度青い封筒募金キャンペーン・ラッフルのお知らせ(財務部)

12 月の青い封筒募金に参加してくださった皆様に心より感謝の意を申し上げます。以前にもご連絡したとおり、参加者を対象に対面でラッフルを開催いたします。開催日時は 1 月 27 日 (土) 午後 2 時より、開催場所は 4 階図書室 です。またご寄付いただいた方には、代々続いてきた日本語学校オリジナルの干支バッジをラッフル会場で差し上げます！



景品	抽選方法
寿司 Taro の飲食ギフト券 (150 ドルを 4 枚)、ポトマック川でのランチクルーズ (一家族分、2 枚)	20 ドルを 1 チケットとし、寄付金額に応じてチケットを割当て (例：100 ドル寄付した方はチケット 5 枚)
65 周年記念 T シャツ、WJLS トートバッグ、日本の文房具、縄跳び、リコーダー、カーマグネット等	寄付金額にかかわらず一人につきチケット 1 枚

【創立 65 周年記念事業】有林参事官特別講演のお知らせ

在アメリカ合衆国日本国大使館の有林浩二 (ありばやし・こうじ) 科学技術参事官を招いて、特別講演を開催致します。有林参事官は文部科学省のご出身で、文部科学省において原子力・核融合エネルギー分野、宇宙分野、医療分野、材料分野などの様々な科学技術分野における研究開発事業に従事された経験を糧に、現在は日本大使館にて日米の科学技術外交政策の調整等に従事されています。これまでのご知見から、「科学技術が切り拓く未来社会」についてお話しいただきます。



【実施概要】

テーマ	科学技術が切り拓く未来社会	開催場所	聖心 SR 校 4 階図書室
開催日時	2 月 10 日 (土) 午前 10 時～11 時	対象	本校在籍家庭の保護者
参加申し込み	コチラ のフォームより、参加希望人数や有林参事官への事前質問を入力してください		
問い合わせ	65 周年記念行事実行小委員会 65th@wjls.org まで		

【プロフィール】

兵庫県西宮市出身。2001 年に文部科学省に入省後、様々な研究開発関連部局における研究推進業務や東京電力福島第一原子力発電所事故対応業務等を経験した後、東南アジア諸国連合 (ASEAN) 日本政府代表部一等書記官 (科学技術担当)、国立研究開発法人物質・材料研究機構経営戦略室長、林芳正文部科学大臣秘書官、宇宙開発利用課企画官、放射性廃棄物企画室長を経て、2021 年 7 月より現職

全家庭対象！2024 年度役割分担希望調査を実施 (学年代表)



来年度 (2024 年 4 月～) の保護者の役割分担を調整するため、希望を調査するアンケートを 2 月上旬～中旬に実施します。どのような役割があるのか、それぞれの活動内容や募集人数については、本校ウェブサイトの保護者ページ「[保護者の役割](#)」に掲載しています。来年度の体制が決まり次第、随時情報を更新しますのでご確認ください。*退学予定や免除対象の家庭も回答が必要です。

- ・アンケートはすべての家庭が回答必須 (無回答の場合は希望に沿えないことがあります)
- ・アンケートの回答期間は約 1 週間ですので、一斉メールや WJLS からのメールをお見逃しなく

補習校経験者によるパネルディスカッションが開催されました！

12月9日（土）、アメリカの補習授業校に在籍した同窓生や保護者であり、日米経済を牽引する3名のゲストをお招きし、「時代を拓くグローバル人材とは？～日本語補習校出身者の歩みを振り返り、未来を志向する～」と題してパネルディスカッションが開催されました。本企画は、創立65周年記念事業の一環として行われたものです。



65周年記念パネルディスカッション
「時代を拓くグローバル人材とは？」

パネリストの吉村亮太さん（米州住友商社会社ワシントン事務所長・ワシントン日本商工会会長）は、小学4年生から中学2年生まで本校に在籍し、現在は商工会の会長として卒業式や運動会などの行事にもご臨席いただいています。井口徹夫さん（東芝アメリカ社ワシントン事務所長・ワシントン日本商工会財団理事長）は、幼稚園から小学3年生までニューヨークの補習校に在籍し、中学生で再び渡米した際には単身でアメリカに残る道を選ぶなどユニークな経歴の持ち主です。小林知代さん（Washington CORE, L.L.C. Co-CEO・ワシントン日本商工会財団理事）は本校の元保護者で、管理運営委員を務めた経験もあります。パネルディスカッションでは三者三様の視点をお聞きできた一方で、補習校で学ぶ生徒が持つスキルの重要性が度々話題に上り、未来のグローバル人材として生徒たちに大きな期待が寄せられているのが印象的でした。テーマごとにパネリストのコメントをご紹介します。



吉村亮太さん

日本語補習校での学びや経験について

吉村：現地校では唯一の日本人だったので日本語を話せる補習校が楽しみだった。寝袋を持参し、毎週授業後は友人宅に泊まりに行った。大使館・メディア・国際機関・企業等に勤める友人の保護者たちは身近な大人としてロールモデルであり、就職の際に商社を選ぶきっかけにもなった。還暦を過ぎても補習校の仲間とは交流が続いている。

井口：吉村さんとは真逆で、当時は補習校には通いたくなかった。土曜日は友人と遊んだり野球をしたりしたかった。しかし、帰国後、学校生活になじむのに苦労したため、補習校で日本の学校の雰囲気を経験したことが助けになった。後になって、そのために親が補習校に通わせたのだと理解できた。中学生で再び渡米したのち、自ら希望してマサチューセッツ州の全寮制の高校に進学するなど、その時々選択が現在につながっている。



井口徹夫さん



小林知代さん

小林：日本語学校では子供たち以上に保護者として楽しませてもらった。4人の子供たちはそれぞれ通った年数は異なるが、自身のルーツを知り、日本人の考え方が身に付いたのではないかな。運営委員会の活動を通して、子供たちや日本の将来について考える機会となり、保護者の熱い思いで学校が成り立っていると感じた。今振り返ると、夜遅くまで会議をしたのも良い思い出。

バイリンガル教育や異文化コミュニケーションについて

吉村：バイリンガル教育の肝は、日本に帰った後に英語が好きでいられるかどうか。そのために英語の先生と良好な関係を築けるかどうかは重要。英語力維持のために当時始まったばかりの二か国語放送を観たり、大学で必須でない英語の授業を取ったりしていた。ただし、言語だけの問題ではないのでバイリンガルより「バイカルチュラル」という言葉の方がしっくりくる。相手によって自然に接し方が切り替わる。例えば通訳する場合でも、話し手の意図を汲んで咀嚼して伝えることで交渉はよりスムーズに運ぶ。

井口：アメリカ生活が長いと日米の文化や習慣が自然と身に付いているので、自分自身は意識していない。保護者は心配しているかもしれないが、補習校の生徒たちも柔軟に対応して自然と周りに溶け込んでいるはず。アメリカは多様性の社会なので、受け入れ態勢も整っている。赴任で子供たちを連れて渡米した際は、英語の習得やスポーツなどの課外活動を通して多くの人や文化に触れることを優先した。



子供たちが担う役割について 考えさせられる場面も

小林：子供たちは普段いろいろな価値観の人と交流し、異文化での生活に慣れている。日本語学校に来ている生徒たちのコミュニケーション能力は高い。日本にルーツを持つ子供たち一人ひとりが日本のアンバサダーであるという意識を持って情報発信していただきたい。

時代の変化と求められる人材について

吉村：日米ともにリーダーシップは重要視されるが、日本の教育を経験するだけではリーダーシップは発揮しにくい。一方で、最近のアメリカではリーダーに共感指数（EQ: Emotional Quotient）の高さが求められる。日本で育てば自然に身に付くことだが、いかに部下の気持ちを汲み取り、寄り添うかをビジネススクールで教えている。

小林：日本人が携わる部門は優秀で評判が高い。組織の中では、リーダーでもフォロワーでもチームプレイヤーとしていろいろな役割がある。自分らしさをアドバンテージと捉え、貢献できる場所を見つけられればよい。

井口：最近ではコミュニケーション能力の高い人材が求められている。異文化コミュニケーションでの経験が、個人を尊重したりチームワークを大切にしたりするバランスをとる力を育むことに結びつく。また、アメリカでディスカッション形式の教育を受けていることは、非常に役に立つ。



時代を拓くグローバル人材 として補習校の生徒に期待！

在校生へのメッセージ

吉村：ダイバーシティの真の意味は相手のことを思いやれること。日本語ができる国際人は、まさに日系企業が求めている人材。いろいろな文化と接しつつ、日本語や日本への理解を持つという標準装備を整えてほしい。

井口：アメリカで多様な文化を経験する子供たちの可能性は無限大。もっと自信を持ってよい。どこに居ても日本人としてのアイデンティティを大切に、日本のことを世界に発信する意識を持ってもらいたい。

小林：子供が大学進学時のエッセイで、「私はアメリカ人と日本人の『ハーフ』ではなく『ダブル』だ」と書いていた。両方経験できて得しているという気持ちが大切。保護者は子供たちを日本だけでなく、日米や世界の宝として褒めて応援してあげてほしい。

会場からは終了ギリギリまでパネリストへの質問が寄せられるなど、保護者の関心の高さがうかがえました。最後に、参加した保護者から届いた感想をご紹介します。

アメリカの地で、日本の言語だけでなく、文化や考え方も学べるのは、塾ではできない経験だと改めて思いました。

補習校の良い点は、自分の親以外に他の日本人家庭の価値観に触れられることだと思います。

異文化コミュニケーションを普通に体得している補習校の子供たちは、実社会で求められているスキルを持っている、という点に勇気づけられました。

【満員御礼】「親子で続ける漢字学習へのヒント」報告（教育人事部）

12月16日放課後、「親子で続ける漢字学習へのヒント（アメリカで漢字を学ぶ子供たちへ）」と題するイベントを開催しました。対象は、小学1・2年生の児童とその保護者で、放課後に親子一緒に参加できる学習イベントとしては画期的な試みでした。



講師を務めたのは、本校保護者でもありジョージ・ワシントン大学で日本語を教えている辻岡孝枝さんと、本校の元保護者で日本に派遣される米国政府関係者に日本語を教えているマッキソック美穂さんです。まずは辻岡さんが児童に向けて、漢字の成り立ちをわかりやすく解説した後、どうして漢字を学ぶのかを一緒に考えました。続いてマッキソックさんが保護者に向けて、よく「小3の壁」と言われる理由を説明し、家庭で漢字・語彙学習に取り組む工夫を紹介してくださいました。参加した児童は、紹介されたアプリを使って漢字を書く練習をしたり、友だちと同時にできる漢字ゲームなどをしたりして楽しみました。

参加者からは、「とても参考になり、楽しく漢字を学ぶコツがつかめた」、「便利そうなアプリやウェブサイトの紹介など参考になった」などの声が寄せられました。以下でご紹介するように、辻岡さんやマッキソックさんは日本語学習についての知識や経験が豊富で、本校の児童生徒の学びを支援するアイデアを提案してくださっています。教育人事部では、今後も学内外の有識者の協力を得ながら家庭教育のヒントとなるイベントを開催していきたいと思っていますので、ご要望などがありましたら、kj@wjls.org までお知らせください。

辻岡孝枝さん ジョージ・ワシントン大学東アジア言語文学科日本語プログラム教育准教授。日本語と日本語言語学概論の教鞭を取る。2010年、GWの優秀教授賞（ベンダー賞）を受賞。全米ジャパンボウルの評議員、Jr.ジャパンボウルを主催するJ-LEARN（日本語教育リソースネットワーク）の実行委員なども務める。

マッキソック美穂さん 日本に派遣される外交官や武官など、米国政府職員の日本語プログラム講師（米国務省FSI、米国防総省、Mansfield Foundation）を務める一方、ロードアイランド及びジョンソン・カウンティ・コミュニティ・カレッジの非常勤講師も務める。2022年に本校の「漢字っこ！」（漢字の家庭学習用教材のサイト）の作成に主体的に携わる。



辻岡さん（左）と
マッキソックさん（右）

このイベントで使用したスライドは、本校ウェブサイト「[保護者ページ](#)」の「家庭学習を応援！」（要パスワード）→「保護者向け講演会資料一覧」でご覧になれます。小学1・2年生のお子さんがあるご家庭に限らず、どなたにも参考になる資料ですので、ぜひお役立てください。

【お礼】創立65周年記念誌創作作品へのご応募ありがとうございました！

創立65周年記念誌に創作作品を応募してくださった皆様、そして12月9日に開催した創作活動ワークショップに参加してくださった皆様、ありがとうございました。応募作品総数は105作品。予想を上回る沢山の方にご参加いただき、感謝申し上げます。

応募作品は3月に発行予定の65周年デジタル記念誌に掲載されます。現在、記念誌発行に向けて作業中です。どうぞお楽しみに！



創立 65 周年記念特別企画「未来を創れ！」世界に羽ばたく同窓生の今



いまむら いつき
今村 樹

在籍した時期：2008 年から 2012 年（中学部 2 年～高等部 2 年）

出身大学：一橋大学

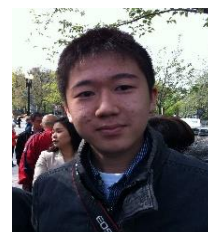
現在：三井物産勤務、建設・鉱山機械の仕事を担当。昨年 11 月まで銅の産出国であるペルー・リマに赴任し、建設・鉱山機械の販売会社に勤務

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

公立の現地校に通っていたため、週末の日本語学校は心が休まる場所でした。お昼休みに級友と雑談するのが楽しかった思い出です。

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

アメリカ育ちの級友と仲を深められたことで、異国で育った日本人や日系アメリカ人のマインドセットや考え方からたくさんの刺激をもらうことができました。ペルー生活においても、日系ペルー人コミュニティと仲良くなるのに役に立ちました。



ワシントン DC にて
当時高校 1 年生



マチュピチュにて

Q. 日本に拠点を移すことに決めたタイミングや理由は？

アメリカの公立高校を卒業するタイミングで日本の大学に進学することに決めました。英語は第二言語として習得したので、日本語を母語にしながら、グローバルに仕事ができる環境に身を置きたいと考えました。現在は日本企業で働いていますが、定期的に海外勤務があり、日本と海外を行ったり来たりしています。

Q. 在米中はどのように受験勉強をしていましたか？

最終学年の時は、日本の大学進学に向けて最も重要な、SAT と TOEFL (iBT) のスコアメイクに集中しました。過去問対策と家庭教師の補講を活用し、特に語彙力とエッセイの強化に取り組みました。リスニングやスピーキングの教材として TED Talks を使ったほか、英語力維持のために海外ドラマを英語字幕付で視聴したり、New York Times の記事を読んだりすることを習慣にしていました。

当時、学習時間の割にスコアが伸びないことがあり、効果的な学習方法を組み立てることに苦労しました。帰国後、日本人の絶対数が少ないワシントン DC エリアは、他の地域に比べて大学進学や試験対策に関する情報が限られていたと感じました。不利な部分もあるかもしれませんが、学習方法を自分で考えることは非常に大切ですし、今となっては良い思い出です。

Q. 在校生へのメッセージ

2 回目の海外生活をペルーで開始し、スペイン語を一から学習し、現地社会に適応していく時に、中学生でアメリカの現地校に転入して英語を一から学んだことを思い出しました。補習校で出会ったアメリカ育ちの級友から受けた刺激を思い出しながら、スペイン語を身につけラテンアメリカのカルチャーに溶け込んだことで、今では自分の中に、日本・アメリカ・ペルーの三つの軸があることを実感しています。補習校は日本から来た人にとっては現地校よりマイルドにアメリカを知る場所であり、アメリカで育った人にとっては日本を知る場所だと思います。第二言語の習得と異文化への適応は簡単なことではないですが、壁を乗り越えた時に大きく自分の世界が広がるのを感じられるのが醍醐味だと思います。



鉱山ダンプトラックの前で
現地職員と撮影



YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.

INTERNATIONAL
MOVING SERVICE



お荷物の多い方!時間のない方!
面倒なお引越は全てまかせて
ら〜くら〜!



安心

引越
らくらく 海外パック

箱に入らない家具や
自転車なども送りたい、だけど安く
済ませたい!そんな方へ



丁度
いい

ベーシックプラン

定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をして節約!
すぐに必要ではない
お荷物は船便で割安に



節約

単身プランSea

定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をされる方
必要な荷物を
最短の所要日数でお届け



早い

単身プランAir

各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます /

www.yamatoamerica.com/cs/



フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8
1-866-5-KIKOKU

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店

22930 Quicksilver Drive, Unit 115
Dulles VA, 20166

Phone: (703) 661-3501

Email: wasoperat@yamatoamerica.com

ここに掲載されている会社・団体を利用したことによって生じたいかなる損害に対しても、ワシントン日本語学校管理運営委員会は一切責任を負うものではありません。

次期学年代表を募集しています！（学年代表）

学年代表の任期満了に伴い、次期学年代表（2024 年 4 月から 1 年間）を募集します。管理運営委員の役職の 1 つである学年代表は、学校運営と保護者をつなぐ架け橋です。3 名で構成されていて、担当する学年層をカバーしながら仕事は分担・協力しあって務めることができます。在任中と退任後 2 年間は役割当番や学級代表、コーディネーターの選出から免除されます。ご応募お待ちしております！

- 【主な仕事内容】 学級代表のサポート、運営委員会議に出席、役割当番の希望調査
【募集人数】 中学年代表：現在小 2-小 4 保護者から 1 名、高学年代表：現在小 5-高 1 保護者から 1 名
【応募方法】 氏名と在籍学年を明記のうえ学年代表（gakunendaihyo@wjls.org）へ
【締め切り】 2024 年 1 月 26 日(金)

※立候補者多数の場合は先着順で決定し、立候補なしの場合は対象学年から 2 月上旬に抽選で選出します。
ご質問・お問い合わせは学年代表（gakunendaihyo@wjls.org）まで、ご連絡ください。

委員長からの報告



明けましておめでとうございます。冬休みはいかがお過ごしだったでしょうか？私は 3 週間ほど日本に一時帰国をしてきました。年末は予想通り大雪情報などで心配したりしましたが、元日の能登半島での大地震と 2 日の羽田空港衝突事故の臨時ニュースは、言葉では言い表せないほどの衝撃でした。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、1 月 6 日の月例管理運営委員会では、まず校長先生より「進路希望調査の集計結果」の報告がありました。この結果をもとに教務・事務局と共同で、来年度に向けて教室数や予算案などを確定していく作業に入ります。また、昨年 10 月の年次総会で「パートナーシップ部（以下、PS 部）設立小委員会」より説明がありましたが、新規の部署として来年度「PS 部」の設立が承認されました。それに伴い 2 月に実施される保護者役割希望調査の中で、保護者役割としての募集が予定されていますので奮ってご応募ください。続いて各部署や各小委員会から 12 月の活動報告と、今後の活動計画などの報告がありました。3 期（1 月～3 月）は年度末の式典準備（卒園式・卒業式）と各活動の総括、そして新年度の準備と新旧運営委員の引継ぎと大変慌ただしくなります。

最後に、2024 年が皆様にとってより良い年になりますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



- 委員長： 辻川扶紀
副委員長： 小寺友美
総務部： 松林拓磨（部長）・大杉真名美・竹村聡子・鶴見圭祐・松田真実
財務部： グリフィン尚美（部長）・牛嶋 崇
教育人事部： 大島由美子（部長）・片田順子・栗原美恵・塩崎桃子・福島加代子
広報部： 河野真弓（部長）・竹内由美
学年代表： 大島千枝（低学年代表）・向山こずえ（中学年代表）・島未知子（高学年代表）

